

2018年度

市川ライフステージ大学

＜千葉商科大学 履修証明プログラム＞

シラバス

 **CUC** 千葉商科大学
Chiba University of Commerce
地域連携推進センター

< 目 次 >

講義時間割	P. 1
◆必修	
① 総合演習(必修ゼミ)	P. 2
◆第1期	
② ITツール仕事獲得講座	P. 3
③ 健康管理・フィットネス	P. 5
④ 高齢者に対する支援と介護保険制度	P. 6
⑤ マーケティング	P. 8
⑥ 情報リテラシー	P. 10
⑦ 日本の伝統音楽の楽しみ	P. 12
◆第2期	
⑧ グラフィックデザイン基礎	P. 14
⑨ 高齢者の住まい講座(自宅から施設まで)	P. 15
⑩ クラウドソーシング活用講座	P. 17
⑪ 会計と社会	P. 19
⑫ 知的財産法	P. 21
⑬ ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング講座	P. 22
⑭ 空間デザイン	P. 24
◆第3期	
⑮ 子育て・家族サポート論	P. 26
⑯ 地域資源論	P. 27
⑰ アニメーション表現	P. 28

<講義時間割>

◆開講式、「①総合演習(必修ゼミ)」第1回 5月12日(土) 10時40分

「①総合演習(必修ゼミ)」第2回 5月19日(土) 9時

◆第1期 6月4日(月)~7月29日(日)

月曜日	木曜日	土曜日			日曜日
6限	6限	1限	2限	3限	1限
②IT ツール 仕事獲得講座	③健康管理・ フィットネス	④高齢者に 対する支援と 介護保険制度	⑤マーケティ ング	⑥情報リテラ シー	⑦日本の伝 統音楽の楽 しみ
志鎌真奈美	藤野和樹 下獄進一郎	和田義人	仁平京子	小林直人	松本浩和

◆第2期 9月3日(月)~10月29日(月)

月曜日	木曜日	土曜日			日曜日	
6限	6限	1限	2限	3限	1限	2限
⑧グラフィ ックデザイ ン基礎	⑨高齢者 の住まい 講座 ー自宅か ら施設まで	⑩クラウド ソーシング 活用講座	⑪会計と社 会	⑫知的財 産法	⑬ヘルス ケア・ファイ ナンシャル プランニン グ講座	⑭空間デ ザイン
吉羽一之	中川潤一	熊野健志	千葉啓司	亀山夏樹	赤木禎文	山崎裕史

◆第3期 11月19日(月)~2月3日(日)

土曜日		
1限	2限	3限
⑮子育て・家族 サポート論	⑯地域資源論	⑰アニメーショ ン表現
橋本由佳	鈴木孝男	上田裕子

<授業時間帯>

1限 9:00~10:30

2限 10:40~12:10

3限 13:10~14:40

4限 14:50~16:20

5限 16:30~18:00

6限 19:00~20:30※

※大学時間割とは異なる

【注】上記時間割は変更する場合があります。

【注】都合により開講科目を変更する場合があります。

【科目名】

① 総合演習(必修ゼミ)

【担当者名】

朽木 量、鈴木 孝男

【開講時期(予定)】

第1回 5月12日(土)10時40分

第2回 5月19日(土)9時

※第3回以降の総合演習(必修ゼミ)は各期の間及び第3期終了後に行ないます。

【講義内容】

初回授業時に説明します。

【講義の到達目標】

初回授業時に説明します。

【準備学習等の指示】

初回授業時に説明します。

【授業計画】

第1回 講座概要・講師の紹介 受講生自己紹介、各自テーマの検討

第2回 各自テーマの深堀と調査研究方針のディスカッション

第3回 各自研究発表の事前発表と講評

第4回 修了発表に向けての論文・企画書等の作成演習

第5回以降については、第1～4回の授業時に説明します。

【評価方法】

全8回のうち、5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

なし。

【参考文献】

なし。

【科目名】

② IT ツール仕事獲得講座

【担当者名】

志鎌 真奈美

【開講時期】

第1期 月曜日6限

【講義内容】

インターネットやデジタルツールの普及に伴い、誰でも気軽に情報発信ができる環境が整って来た。そのような時代の中で、IT ツールを使えない人材は取り残される可能性がある。この講座を通して、インターネットを活用した情報発信力を向上させるとともに、IT ツールをフル利用した仕事の獲得方法を身に着け、情報化社会においてイニシアティブを取れる人材を育成する。

【講義の到達目標】

IT ツールを使って仕事を獲得するための基礎知識を身につけることを目標とする。

【準備学習等の指示】

・パソコンの基本操作ができること(Windows8 以上)
(起動、終了、フォルダ作成、名称変更、ソフトの起動、文字打ち、簡単な文書作成 等)

・インターネットの基本操作ができること(Windows8 以上)
(ブラウザの起動、メールの送受信、Yahoo や Google での検索、ネットショップでの買い物等)

【授業計画】

第1回 インターネットを使った情報発信の有益性

- ・インターネットの歴史や概要
- ・情報の受け手から発信者へ変わると起こりうること
- ・ネットで情報発信するメリットとデメリット

第2回 ネットを利用した仕事獲得とは？種類と手法

- ・インターネットを利用した仕事獲得の流れ
- ・受注しやすい仕事の種類と手法

第3回 ホームページ、ブログ、SNS 等、各ツールの特徴と違い

- ・周辺にある各ウェブツールの種類と違い
- ・活用方法とメリット・デメリット

第4回 ホームページ作成の準備をしよう(情報設計)

- ・ホームページ作成前に、必ず準備をしておきたいこと
- ・情報設計の重要性と設計方法

第 5 回 Jimdo でホームページを作ってみよう(1) ※実習形式

- ・Jimdo というツールを利用したホームページ作成方法

第 6 回 Jimdo でホームページを作ってみよう(2) ※実習形式

- ・Jimdo というツールを利用したホームページ作成方法

第 7 回 ネットを使った集客と認知の拡大について ※実習形式

- ・ホームページを作った後の流れ
- ・集客方法、認知の拡大についての概要、具体的な手法
- ・仕事の種類ごとの収益アップ方法
- ・効果的な仕事獲得方法

第 8 回 IT 総合力アップのためにやっておきたいこと

- ・制作ホームページの発表
- ・インターネットを「面」でとらえる視点
- ・ウェブでの発信力向上と継続するための取り組み
- ・8 回分のまとめ

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

パソコンを使用する回があるので、「準備学習等の指示」に記載した条件を満たしている必要があります。

【参考文献】

講義内で紹介します。

【科目名】

③ 健康管理・フィットネス

【担当者名】

藤野 和樹、下嶽 進一郎

(各回、どちらかの教員による講義)

【開講時期】

第1期 木曜日6限

【講義内容】

この講義では、最新の健康・スポーツ科学の知見に基づき、幅広い年代における健康の維持増進のための基礎知識を学ぶ。

【講義の到達目標】

正確な健康・スポーツ科学の知識を理解し、その知識を活用し、自身の健康のために行動できるようになる。

【準備学習等の指示】

自身に関わる健康問題について振り返り、講義内容との比較や新たな知識への気づきをより明瞭にさせる。

【授業計画】

第1回 健康とスポーツの関係性について

第2回 健康・体づくりのトレーニング 1

第3回 健康・体づくりのトレーニング 2

第4回 コーチング論(コミュニケーションについて)

第5回 スポーツとメンタルヘルス

第6回 健康と社会学

第7回 スポーツ運動学

第8回 スポーツバイオメカニクス

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定する。

【履修上の注意】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【科目名】**④ 高齢者に対する支援と介護保険制度****【担当者名】**

和田 義人

【開講時期】

第1期 土曜日1限

【講義内容】

高齢者福祉の実践においては、高齢者の尊厳を支えるという視点が重要です。この講義では社会的存在としての高齢者の理解、高齢者の身体的、精神的理解に向けて、最低限知っておくべき知識を学習します。次に高齢社会の特性やニーズにふれ、現在の高齢者福祉制度の包括的な理解と、介護保険制度についてはその基本的な枠組みと制度の仕組みを整理した上で、介護保険制度による個別のサービス、さらに今後の課題となっている混合介護(選択介護)、保険外サービス、共生型ケアについても、具体的な事例を通して学習します。

本講義については、介護・生活支援サービスに関わる専門職の役割と地域住民、自治体との連携を理解した上で、こうした意義と背景をもつ居宅サービスから施設サービス、新たにスタートする「地域包括ケアシステム」及び地域支援事業の見通し、そして介護予防給付と市区町村が主体となる総合事業の今後の課題についても学習します。

【講義の到達目標】

本講義の到達目標は、まずは対象となる“高齢者”の理解です。次にその高齢者および高齢社会の特性やニーズに触れ、現在の高齢者保健福祉制度を包括的に理解した上で、その中心となる介護保険制度の基本的な枠組みと制度の仕組みを具体的な事例をベースに理解し、2025年問題を筆頭に近未来の高齢者が当面する課題を洞察できるようにします。

【準備学習等の指示】

この講義の基底概念は「高齢者の本質的理解」です。まずは地域、地元を知ることが重要であり、その意味で地元市川市の高齢者福祉計画、介護保険事業計画を事前に学習しておく事が大事です。

【授業計画】

- 第1回 高齢者の特性(高齢者の社会的理解、高齢者の身体的・精神的理解)
- 第2回 少子高齢社会と高齢者(地域包括ケアと共生型ケアの理解)
- 第3回 高齢者保健福祉の発展と関係法規
- 第4回 介護保険制度の基本的枠組み(全体像と混合介護、保険外サービスを含めた最近の動向)
- 第5回 介護保険制度の仕組み①(制度の仕組み・サービスプロセス)
- 第6回 介護保険制度の仕組み②(地域支援事業、事業計画、質の確保)
- 第7回 介護保険サービスの体系①(専門職の役割と実態)

第8回 介護保険サービスの体系②(居宅・施設、地域包括ケアシステム、総合事業)

【評価方法】

全8回のうち、5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

“課題認識”(問題意識)が大前提となります。社会環境の変化(制度やサービスの変化)に対して“気付ける感性(センシティブティ)”を常に意識しながら履修してください。

【参考文献】

新・社会福祉士養成講座 No.13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第3版
編集 社会福祉士養成講座編集委員会 発行所 中央法規出版株式会社

「地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略」—integrated care の理論とその応用—

著者 筒井孝子 発行所 中央法規出版株式会社

「地域包括ケアと生活保障の再編」—新しい「支え合い」システムを創る—

編著者 宮本太郎 発行所 株式会社 明石書店

「生活保障」—排除しない社会へ

著者 宮本太郎 発行所 株式会社 岩波書店

「在宅介護」—「自分で選ぶ」視点から—

著者 結城康博 発行所 株式会社 岩波書店

【科目名】

⑤ マーケティング

【担当者名】

仁平 京子

【開講時期】

第1期 土曜日2限

【講義内容】

製品やサービスの提供者である企業は、わたしたち消費者のニーズ（欲求）の変化に対応して、マーケティング戦略に新たな工夫がなされ、それが再び、消費者のライフスタイルや消費行動を変化させています。

講義では、「マーケティングとは、何か？」という問いから出発して、マーケティングの基本的な考え方について学習します。そして、講義では、マーケティングの考え方が、現実のビジネスにおいてどのように活用されているのかを理解してもらうために、マーケティング現象や消費現象の事例を用いて説明します。

【講義の到達目標】

- ・履修者が、マーケティング論や消費者行動論の基礎知識を身に付けて、身近なマーケティング現象に興味や問題意識を持ち、企業の立場に立って分析したり、消費者行動を予測できる力を身につけることです。
- ・履修者が、客観的な視点から、自分自身の日々の購買行動や消費行動、購買後行動を分析する力を身につけることです。

【準備学習等の指示】

講義に関連する新聞記事や教科書などに目を通して、内容を事前に確認しておいてください。

【授業計画】

- 第1回 マーケティングと販売の違いとは？：マーケティングの概念／マーケティング・コンセプトの変遷／マーケティングの4P (Product: 製品、Price: 価格、Place: 流通チャネル、Promotion: プロモーション)
- 第2回 マーケティング環境と経営戦略：戦略的マーケティングの概念／3C (Customer: 顧客、Competition: 競争相手、Corporation: 企業) 分析／SWOT (Strengths: 強み、Weaknesses: 弱み、Opportunities: 機会、Threats: 脅威) 分析
- 第3回 事業機会の選択：アンゾフの製品・市場マトリックス／アンゾフの成長ベクトル／製品ポートフォリオ・マトリックス
- 第4回 STP (Segmentation: セグメンテーション、Targeting: ターゲティング、Positioning: ポジショニング: STP 戦略、STP マーケティング): 市場細分化戦略と製品差別化戦略／マス・マーケティングからターゲット・マーケティング、ワン・トゥ・ワン・マーケティングへの変遷

- 第5回 製品政策：マーケティングにおける製品の捉え方／製品ライフサイクル (PLC)／計画的陳腐化／ブランドの先発優位性と後発優位性
- 第6回 価格政策：新製品の価格対応 (①上澄み吸収価格戦略、②市場浸透価格戦略)／製品ラインの価格設定 (①プライス・ライニング戦略、②抱き合わせ価格戦略、③キャプティブ価格戦略)／消費者心理をつかむ価格設定
- 第7回 流通チャネル政策：3つのチャネル政策 (①開放的チャネル政策、②排他的チャネル政策、③選択的チャネル政策)／垂直的マーケティング・システム (VMS) によるチャネル管理／延期-投機の理論
- 第8回 プロモーション政策：コミュニケーションの反応プロセス／ (①AIDMA モデル、②AISAS モデル)／コミュニケーション・ミックス／マーケティング・コミュニケーション (MC)

【評価方法】

講義では、講義内のレポート提出やグループ・ディスカッションなども含め、レポートの内容と講義貢献度を加味して総合的に評価します。

【履修上の注意】

- ・基本的には、講義形式を中心としますが、授業のテーマによっては、グループ・ディスカッションなどのグループ学習を行う場合もあります。
- ・パワーポイントを使用して授業を進行するため、遅刻をしないように留意してください。

【参考文献】

- 石井淳蔵・廣田章光著『1からのマーケティング (第3版)』、碩学舎、2009年。
- 井上崇通著『消費者行動論』、同文館出版、2012年。
- 平久保仲人著『消費者行動論-なぜ、消費者はAではなくBを選ぶのか!』、ダイヤモンド社、2005年。
- 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦編著『マーケティング戦略 (第5版)』、有斐閣アルマ、2016年。
- 和田充夫・日本マーケティング協会編『マーケティング用語辞典』、日本経済新聞社、2005年。

【科目名】

⑥ 情報リテラシー

【担当者名】

小林 直人

【開講時期】

第1期 土曜日3限

【講義内容】

1995年、マイクロソフト社のWindows95発売をきっかけに、その後10年ほどの短い期間でコンピュータやインターネットの利用環境が急速に普及した。それ以前には考えられなかったほどの情報が溢れ、様々な形で活用されている一方で、そのリテラシー(活用能力)教育については、現在においても十分になされているとは言い難い状況である。

本講座では、コンピュータや各種ソフトウェアの基本的な操作を習得するほか、情報通信技術の歴史、および昨今の情報活用技術などについて学び、広く普遍的な知識を身につけることで、情報リテラシーを正しく身につけることを目的とする。

【講義の到達目標】

各種ソフトウェアの基本操作の習得

基本的な情報リテラシーの習得

【準備学習等の指示】

パソコン操作に関するスキルは必要としませんが、マウスやキーボードの基本的な操作方法は事前に確認しておくとう受講しやすくなります。

【授業計画】

第1回 ガイダンス／コンピュータとOS(基本ソフトウェア)

- ・ コンピュータとOSについて
- ・ Windowsの基本操作

第2回 インターネットとウェブブラウザ

- ・ インターネットの歴史概要
- ・ ウェブブラウザの基本操作／ウェブを活用した情報収集方法

第3回 コンピュータを活用した文書作成

- ・ コンピュータの仕組み
- ・ Microsoft Word / Microsoft PowerPointの基本操作

第4回 表計算ソフトを利用したデータ活用

- ・ Microsoft Excelの基本操作と活用方法

第5回 情報システムとプログラミング

- ・ 情報システムの歴史概要
- ・ Scratch を利用した簡単なプログラミング演習

第6回～第8回 昨今の情報通信技術／総合演習

- ・ ビッグデータ分析、人工知能、仮想通貨(ブロックチェーン) などの情報通信技術についての概要
- ・ 総合演習:各受講生の進捗にあわせて課題を設定します

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

演習を伴う講座であるため、なるべく休まずに参加するようにしてください。やむを得ず欠席した場合には、授業時間内に可能な範囲でフォローを行います。

【参考文献】

講義時に説明します。

【科目名】

⑦ 日本の伝統音楽の楽しみ

【担当者名】

松本 浩和

【開講時期】

第1期 日曜日1限

【講義内容】

日本の伝統音楽、と言っても、舞台芸能からストリート・ミュージックまで、奈良時代から明治維新を経て現代まで、様々なものがある。また日本の音楽は「違い」を味わうことで多様性を獲得し深めてきた。「西洋化」した現代日本で、伝統音楽はどのような存在であり、どこでどのように楽しむことができるのか？ 楽器の制作者、指導者、演奏者の視点から、今に生きる日本の「音楽」を概観し、その楽しみ方を学ぶ。

また、座学にとどまることなく、出来る限り「リアルな体験」を通じて、現在の「日本の伝統音楽」の現在に触れられる機会を設ける。（前年度実績：隣接する弘法寺でのフィールドワーク声明体験／尺八、三味線の実演鑑賞）

【講義の到達目標】

意外と馴染みない「日本の伝統音楽」を、まずは頭で知り、耳で楽しむ事で、新しい音、音楽の世界を獲得する。更には、受講生が『新しい耳』を獲得することで、身の回りにある「音」をより楽しめるように。

【準備学習等の指示】

特に無く、音源を使いながら、日本の音楽を紹介するのが基本なので、気軽に受講していただきたい。講座後、課題として感想や質問を講師に送っていただき、次回講座に活かし、一方通行にならず、双方向での講座を目指す。

【授業計画】

第1講 オリエンテーション 「聴くこと」から始まる「日本の音楽」

日本の伝統音楽は、音をじっくり聴くことから楽しみが始まる

ジョン・ケージや武満徹といった「前衛音楽」の作曲家の考え方を通じて、聴くこととは何か、を先ずは共有する

第2講 伝統音楽の諸相 世界で活躍する伝統音楽 日本に潜む伝統音楽

相撲に見られるように、伝統文化が「外国人」によって担われることは音楽でも同様である
日本の音楽が世界でどのように受け入れられているか

日本の伝統楽器を使って、どのように新しい表現がなされているか

第3講 違いがわかる人になる 日本の美意識と音楽

琴や琵琶など、奈良時代から現代まで、楽器も音楽も変遷してきた

また、例えば一口に「三味線」と言っても、その楽器の形状は細かく違いがあり、それによる

音楽も「長唄」「地唄」「清元」「義太夫」と様々である
違いを知ること、日本の音楽に親しみ、より楽しめるようになる

第4講 音楽のふるさと「声」を巡り

古今東西、音楽の源流に「声」「歌」「祈り」がある
世界各地の「声」「宗教音楽」からたどり、日本の声明や遊び歌、仕事歌、披講、等を通じて、
音楽の原点である「声」の表現を概観する

第5講 フィールドワーク 仏教の音響空間

千葉商科大学に隣接する真間山弘法寺でのフィールドワーク
「声明師」でもある僧侶の山田一成上人を講師に、実際に声明や仏具に触れ、体験する

第6講 アウトサイダーの音楽

日本の伝統音楽には雅楽のような中央と結びついたものから、民衆の音楽もある
「河原者」から見える日本の芸能と音楽
瞽女(ごぜ)や虚無僧などのストリート・ミュージックから、日本のアウトサイダー音楽を紐解く

第7講 日本の楽器を「見る」尺八を中心に製作工程や素材、道具など

楽器は、その形と音色で、それを生み出した民族の美意識を端的に表現している
音楽は単に聞くだけではなく「見る」ものでもある
また、楽器の制作過程を知ること、多角的に音楽を知る
更には日本の「ものづくり」が抱える課題についても考察する

第8講 これまでの講義内容を踏まえディスカッション

これまでの講義を通じて、受講生はどのような『新しい耳』を得ることが出来たか
個々の体験を共有することで、理解を深める

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

レポート提出に関して、メール送受信程度のパソコンスキルを有すること
手書きFAXも可
実際に音を聴きに行くフィールドワーク有り(予定)

【参考文献】

ジョン・ケージ『小鳥たちのために』
立花隆『武満徹・音楽創造への旅』
武満徹『武満徹著作集』
田中健次『図解日本音楽史』
他 随時紹介 購入の必要はありません

【科目名】

⑧ グラフィックデザイン基礎

【担当者名】

吉羽 一之

【開講時期】

第2期 月曜日6限

【講義内容】

グラフィックデザインにおける情報の見せ方を研究し、デジタル環境下で形にするための技法を習得する。より多くの既存のデザインを検証しながら、デジタルデザインワークに必要なとされる Adobe Illustrator と Adobe Photoshop の基本操作を学び、演習や課題に取り組む。

【講義の到達目標】

情報の見せ方とデジタル環境でのデザインワークの基礎的な知識を理解し、グラフィックデザインにおける実践的な技法を体得する。

【準備学習等の指示】

コンピュータの基本的な知識を持ち、操作に慣れていること。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション〈使用アプリケーションについて〉、講義〈情報の整理と見せ方〉

第2回 Adobe Illustrator 演習—図形ツールを使った図形の作成

第3回 Adobe Illustrator 演習—線ツールを使った図形の作成

第4回 Adobe Illustrator 演習—文字の演出

第5回 Adobe Photoshop 演習—写真の補正〈画像／色調補正・画像解像度〉

第6回 課題説明、課題フォーマット(カラーモード・トンボ)作成

第7回 課題制作〈アイデアスケッチチェック・レイアウト〉

第8回 課題制作〈最終チェック・仕上げ・裁断〉、作品講評会

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、課題を、演習や講義への理解が示される完成度を持って提出すること。

【履修上の注意】

演習・課題データを管理できる USB メモリもしくは外付ハードディスクを用意すること。
(詳細は初回授業で説明)

【参考文献】

『デザインの教室 手を動かして学ぶデザイントレーニング』佐藤好彦
エムディエヌコーポレーション 2012年

【科目名】

⑨ 高齢者の住まい講座（自宅から施設まで）

【担当者名】

中川 潤一

【開講時期】

第2期 木曜日6限

【講義内容】

私たちが「最期まで生ききる」ためには、その器となる住まいが大切です。この講座では普段住宅の設計と高齢者施設を運営している講師の知見を生かして、高齢になっても住みやすい家とはどのようなものなのか、外部の介護サービスを受けながら自宅に住み続けるためにはどうすれば良いのか学習します。また自宅以外での介護施設についても紹介し、自らの意思に基づいて自らの終の棲家を選択できる方法を習得します。そして最期に自らの理想の終の棲家について考察し、発表していただきます。

【講義の到達目標】

高齢になった時の住まいについて自らの意思で選択できるようになる。

- (1) 自宅での生活を続けるための建築的な工夫や利用できる外部の介護サービスについての実践的な知識を習得する。
- (2) 自宅での生活が困難になったときに自分のニーズに合った施設を選べるようになるための実践的な知識を習得する。

【準備学習等の指示】

特になし

【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション 建築と介護の基礎知識
建築と介護の分野における基礎知識を学ぶ。
- 第2講 高齢者にとっての理想の住まいとは
高齢になったときに必要とされる住まいの工夫や在宅介護サービスについて理解する。
- 第3講 施設見学
実際の介護施設を見学し、料金やサービスの概要を理解する。
- 第4講 介護保険の基礎を学ぶ
多くの高齢者や、その家族に必要と思われる介護保険制度について理解する。
- 第5講 理想の住宅についてのワークショップ(実習1)
自分にとっての理想の住まいとは何か具体的に考えてみる。
- 第6講 高齢者施設の選び方
後悔しない終の棲家の選び方について具体的に説明する。
- 第7講 これからの住まい方について考える(実習2)
自らの終の棲家のあり方について考察し、その準備をするための方策を講義す

る。

第8講 成果発表・自分の終の棲家についてのディスカッション
受講者自らの理想の終の棲家について発表し、議論する。

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

希望に応じて高齢者施設の見学を予定しています。

【参考文献】

・市川市役所 介護保険のパンフレット

【科目名】

⑩ クラウドソーシング活用講座

【担当者名】

熊野 健志

【開講時期】

第2期 土曜日1限

【講義内容】

「働き方改革」や「副業」が、国を挙げて議論される時代となりました。日々の暮らしの中ではなかなか気づきにくいことですが、情報通信技術の進歩にともなって、私たちの「仕事」のあり方も大きく変化しています。その変化を、クラウドソーシングの習得、実践を通じて感じていただきたいと思います。特にクラウドソーシングの「発注」が、ワークスタイル変革の要であることを体感し、これからのネットワーク社会において主役になっていくテレマネージャの重要性について理解を深めていただきます。

【講義の到達目標】

クラウドソーシングの発注を体験し、テレマネージャとしての心得を身につける。

【準備学習等の指示】

クラウドワークスへの登録(講座内で指示する)、数百円～数千円程度の実習実費要(クレジットカードがあることが望ましい)

【授業計画】

第1講 クラウドソーシングの概要

ネットワークを通じて仕事を発注するクラウドソーシングについて、その仕組みとこれからの社会に与える影響について紹介する。

第2講 クラウドソーシングの登録と発注(実習Ⅰ)

実際にクラウドソーシングに登録して、発注するまでを体験する。

第3講 アポロ13号に見るテレワーク活用の要諦

1970年に発生したアポロ13号の事故を検証しながら、ネットワークを使って仕事をする意義を考察する。

第4講 クラウドソーシングの発注(実習Ⅱ)

第2講で発注した内容を確認しながら、再度、発注を体験する。

第5講 炭鉱業の盛衰に見る労働市場

現在、我々が常識だと思っている労働制度について振り返りながら、ワークスタイル変革をどのように考えるべきかを考察する。

第6講 クラウドソーシングの発注・検収(実習Ⅲ)

第2講、第4講の実習を振り返りながら、検収までを体験する。

第7講 テレマネージャ心得帖の紹介

日本テレワーク学会で議論されている「テレマネージャ心得帖」を紹介しながらネットワーク上で発注する技術について概観する。

第8講 成果発表・未来のワークスタイル変革のディスカッション

これまでの内容を踏まえ、各自が体得した「ワークスタイル変革」について発表する。

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

インターネット閲覧、メール送受信程度のパソコンスキルを有すること。
実習の進捗によっては授業計画を変更する場合があります。

【参考文献】

「テレワークが未来を創る」日本テレワーク学会 インプレスR&D ほか
必要に応じて適宜指示・配付する。

【科目名】

⑪ 会計と社会

【担当者名】

千葉 啓司

【開講時期】

第2期 土曜日2限

【講義内容】

現代の経済社会では、会計の果たす役割はとて高くなってきています。経済社会の発展にとって、会計は不可欠であると言ってもいいのです。しかしながら、会計に対するイメージは、経理係に必要なお金に関わる細かい計算に関わる知識であるというものではないでしょうか。コンピューターの発展に伴い、実際に経理に係る仕事をする人の数は劇的に減少してきています。それでも会計の重要性はむしろ高まってきているのです。それはどうしてでしょうか。会計がどのように経済社会と関わっているのかをいろいろな側面から学ぶことで、その理由を探っていきます。

【講義の到達目標】

経済社会において会計の果たす役割を理解すること。

【準備学習等の指示】

少し計算をしてもらうことがあります。簡単な四則演算かパーセントの計算が中心ですが、電卓やスマホなどを準備しておくとう便利です。

【授業計画】

第1講 株式会社、投資家と会計

株式会社の制度は、会計と関わりが深いと言えます。その理由と投資家への情報提供の意味について講義します。

第2講 会計監査の仕組み

会計監査とはどんなものでしょうか。会計監査は会計の要とも言えます。会計監査が必要とされる理由からその仕組みまでを講義します。

第3講 会計上の選択肢

会計は現金・預金に関わりますので、計算も一つの答えしかないものと思われがちです。しかし、会計は企業の活動を記録する手段ですが、企業活動は複雑で多面的です。そのため計算の仕方、記録の仕方が何種類もあります。その理由と影響について講義します。

第4講 工事契約の会計

大規模な建設工事の会計について講義します。実はこの会計にも選択肢があり、利益の金額にも大きな影響を及ぼします。

第5講 不適切会計の意味

日本を代表するような企業でも、不適切会計の問題が生じています。こうした不適切会計や粉飾はなぜ生じてしまうのでしょうか。東芝の事例を取り上げて、わかりや

すく解説していきます。

第6講 財務諸表からわかること

財務諸表は、企業の鏡であると言われる。きちんと作成された財務諸表からは企業のいろいろな面を読み取ることができます。財務諸表の種類やそこから読み取れる内容について講義します。

第7講 企業グループの会計

現代の大企業の多くは、それぞれ企業グループを形成しており、その中で親会社や子会社が存在します。財務諸表は一つ一つの企業ごとに作成されるだけでなく、企業グループ単位でも作成されます。その意味について講義します。

第8講 会計の国際化とグローバル化

現代の企業は、大企業だけでなく中小企業もグローバル化してきていると言われる。その中で会計もグローバル化してきています。会計のグローバル化とは何かを講義します。

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

内容は簿記の講義ではありません。ですから、簿記の検定試験合格を目指すものではありません。

【参考文献】

講義内で紹介します。

【科目名】

⑫ 知的財産法

【担当者名】

亀山 夏樹

【開講時期】

第2期 土曜日3限

【講義内容】

知的財産が注目されつつある昨今、ビジネスにおける知的財産法の重要性が認識されつつも、実際のビジネスの現場において、何が知的財産なのか？また、知的財産をどのように活用してよいか？についてわからない方も多いのではないのでしょうか？

本講座では、知的財産を保護する主要な法律の仕組みについて、事例を通してわかりやすく説明するとともに、実務における知的財産の保護・活用について解説します。

【講義の到達目標】

ビジネスにおける知的財産が何であって、知的財産権がどこにあるかを理解する。

【準備学習等の指示】

特にありません。

【授業計画】

第1回 さまざまな知的財産——知的財産法概要

第2回 技術を守る——特許法・実用新案法

第3回 製品のデザイン保護——意匠法

第4回 マーケティング・ブランディング——商標法

第5回 コンテンツの保護——著作権法

第6回 事例1 ビジネスにおける知的財産の位置付け

第7回 事例2 HP制作等インターネットにおける知的財産リスク

第8回 事例3 商品開発における知的財産リスク

【評価方法】

毎講義終了後に「リアクションペーパー」の提出を求めます。理解した内容を記してください。5回以上提出した受講者には、履修を認定します。

【履修上の注意】

特にありません。

【参考文献】

特になし

【科目名】

⑬ ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング講座

「健康」「資産」を賢くマネジメントして、質の高い生活を楽しみましょう！

【担当者名】

赤木 禎文

【開講時期】

第2期 日曜日1限

【講義内容】

厚生労働省発表では、国民1人あたりが生涯支払う医療費の平均総額は約 2,600 万円になります。公的医療保険を活用出来る人の場合でも約 780 万円が家計費から医療機関に支払われます。一生涯の出費では、かなり大きな金額ですが、他の出費と違って医療機関に減額してもらうことも先送りすることも原則、出来ません。

ゼロ金利で金融機関に預けても利子収入でお金を増やせない今、生涯医療費を適正にすることが資産防衛・資産形成の観点で効果的です。

「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」は「健康」と「資産」の観点から現状を把握し、将来のリスクを予測し、知識・ノウハウを修得して、目標設定、実践することでリスクを解消し、楽しく質の高い生活を過ごすことを目指します。

【講義の到達目標】

「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」の理解と実践

【準備学習等の指示】

特にありません

【授業計画】

第1講 オリエンテーション 講座の説明

- ・「幸せの3条件」とは？
- ・「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」の構成とプロセス
- ・「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」実践によって得られるもの

第2講 医療費制度と生涯医療費、市川市の保健行政

- ・日本の公的医療制度を理解してみよう
- ・社会保険の仕組みを知って、将来のリスクを考える
- ・私たちの市川市の医療保険給付の現状

第3講 医療費・健康予防費をもっと身近に！

- ・医療費の仕組みを知ると行動が変わる
- ・明細書とレセプトには色々な情報が一杯
- ・いざという時のために知っておこう！「病気の値段」

第4講 「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」得する実践法(基礎編)

- ・制度を理解して毎日の行動を変えよう
- ・活用しなきゃ損。新医療費控除「セルフメディケーション税制」とは？
- ・「かかりつけ医」と「かかりつけ薬局」の大切さ

第5講 生活習慣を簡単に変える ICT(Web、アプリ)サービスの使い方

- ・ヘルスケア Web サービス、アプリのトレンドとは？
- ・お金に関する Web サービス、アプリのトレンドとは？
- ・セルフメディケーション税制対応「健康」×「資産」手帳アプリ完全攻略

第6講 ヘルスケアで重要なことは「現状を知る」こと

- ・健康予防を基本からおさらいしてみましょう
- ・「現状を知る」ための人間ドッグ・自己診断キット
- ・病気の予測は出来るのか？

第7講 「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」得する実践法(応用編)

- ・ドラッグストア、調剤薬局の活用して生活の質を向上させる！
- ・進化するフィットネスジムの活用法
- ・リアルサービスと ICT(Web・アプリ)サービスの相乗効果

第8講 人生 100 年時代の人生巧者になるために！

- ・「ヘルスケア・ファイナンシャルプランニング」的、目標設定の大切さ
- ・人生 100 年時代に備えたファイナンシャルプランニングと金融商品

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

講義に参加、スマートフォンご利用の方には、「健康」×「資産」手帳アプリの個人利用コードを配布予定(当該アプリがダウンロード可能となります)。スマートフォンをご利用されていない方がいらっしゃる場合はデモ機を用意してヘルスケア ICT サービスの説明をいたします。

【参考文献】

厚生労働省 国民医療費:統計の概要

厚生労働省 医療保険に関する基礎資料

よくわかる健康心理学 森和代・石川利江・茂木俊彦編 ミネルヴァ書房

【科目名】

⑭ 空間デザイン

【担当者名】

山崎 裕史

【開講時期】

第2期 日曜日2限

【講義内容】

人は常につくられた空間(環境)の中で生きている。住まいや職場、あるいは街というように様々なスケールの環境の中で日々生活しているが、それぞれの空間の持つ意味を考えることは少ない。この講座では、様々な空間事例を挙げながら、人と空間の関係性や空間デザインの意味を解説する。また実際の建築物の空間体験やワークショップ形式の演習を通じて、よりよいコミュニケーションやコミュニティを作るための空間術を学んでいく。

【講義の到達目標】

この講座では、様々な場づくりのための空間デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【準備学習等の指示】

なし。

【授業計画】

第1講 講座の説明+空間感覚について

- ・ 空間の知覚について
- ・ コミュニケーションの形態と距離

第2講 光の空間

- ・ 空間における光の意味について
- ・ 簡単な空間模型をつくり、光の効果などを体験する

第3講 建物見学 <学外>

候補1(平成28・29年度見学)

- ・ 目黒区総合庁舎(旧千代田生命本社ビル)／設計:村野藤吾
- ・ 旧朝倉邸
- ・ 代官山ヒルサイドテラス／設計:槇文彦

候補2

国立西洋美術館、他

第4講 住まいの空間-1

- ・ 「内部」と「外部」の考え方

- ・ [プライベート]と「パブリック」の考え方
- ・ 住宅の歴史

第5講 住まいの空間-2

- ・ 戦後の住宅
- ・ 公共空間(コミュニティ)の考え方

第6講 都市の空間

- ・ 都市空間の読み取り方
- ・ ストック活用の時代と建築リノベーションの可能性

第7講 まちを観察する<学外>

市川市内を予定

- ・ まちを観察する
- ・ まちの課題を見つける

第8講 まちを分析する

- ・ まち観察の発表
- ・ ワークショップ形式でのまち分析と課題の抽出
- ・ まとめ

【評価方法】

全8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定します。

【履修上の注意】

建物見学による空間体験を予定している。現地への移動時間などを考慮して、この日に限り、開始時間の変更あり。また、移動に際する交通費・入館料などの実費負担あり。

【参考文献】

『かくれた次元』エドワード・ホール／みすず書房

『人間の街—公共空間のデザイン』ヤン・ゲール／鹿島出版会

『デザインのデザイン』原研哉／岩波書店

【科目名】

⑮ 子育て・家族サポート論

【担当者名】

橋本 由佳

【開講時期】

第3期 土曜日1限

【講義内容】

トルストイは「死への準備をするということは、良い人生を送るということである」と言っています。良い人生とは何でしょうか。末期の人の代表的な後悔は、自分が生きた証を残せたか？家族を大切にできたか？に尽きるという人もいます。皆さんの人生の節目の時期に、この講座を通して様々な角度から、「子育て・家族サポート」について考えてみたいと思います。

【講義の到達目標】

受講生の方が人生設計を一層充実したものにする為に、社会問題を「他人事」から「自分事」へと振り返る機会とし、自分の中の棚卸を進めることを目標とする。

【準備学習等の指示】

ニュースや新聞等から、家族に関わる関連記事について情報収集してください。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション:授業概要の説明
- 第2回 家族社会学から見る家族の歴史
- 第3回 家族人類学から見る世界の家族観
- 第4回 日本の法制度からみる家族のかたち
- 第5回 行政から見た家族子育てサポート(千葉県幹部職員を招聘予定)
- 第6回 市川市にみる家族子育て資源の発見(市川市子育て支援課他を招聘予定)
- 第7回 情報化社会における家族の変化と展望
- 第8回 演習:あなたの考える「家族」の定義

【評価方法】

8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定する。

【履修上の注意】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【科目名】

⑩ 地域資源論

【担当者名】

鈴木 孝男

【開講時期】

第3期 土曜日2限

【講義内容】

地方創成、地域活性化が国政上の大きな課題になっている。この問題を解決するには、産業の力を借りる必要がある。したがってこの講義では地域における産業のあり方が一つの柱になる。

また、地域に産業を起こすためには何らかの地域資源を見いだす必要がある。この点についても説明する。

【講義の到達目標】

地域や産業についての基礎的な知識を持ってもらう。また、これまでの日本や海外の産業の発展に関する事例も理解してもらいたい。こうした学習を踏まえて、最終的には地域を発展させる上で何か必要かについて、理解してもらうことを目標にしている。

【準備学習等の指示】

特になし

【授業計画】

第1回 地域とは何か

第2回 地域文化の多様性

第3回 地域と巡礼

第4回 千葉の移し四国

第5回 フィールドワーク(葛飾大師の痕跡)

第6回 地域と産業

第7回 地域資源の活用法

第8回 地域の発展と人材

【評価方法】

8回のうち5回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定する。

【履修上の注意】

特になし。

【参考文献】

特になし。

【科目名】

⑰ アニメーション表現

【担当者名】

上田 裕子

【開講時期】

第3期 土曜日3限

【講義内容】

Adobe After Effects によるアニメーション制作。

【講義の到達目標】

自主アニメーションを mp4 形式(PC 上で再生可能)で完成させる。

【準備学習等の指示】

ショートアニメーションの題材やキャラクターまたは使いたい写真等、集めておく。
手書きの元絵の読み込みも可能。

(Adobe Illustrator や Adobe Photoshop 等、絵を描くソフトが使えるとより良し。)

絵が描けなくても写真や図形でアニメーション作成可能。

【授業計画】

第1回 アニメーションの考え方・作り方

Adobe After Effects にて「読み込み・編集・書き出し」一連の手順紹介

第2回 Adobe After Effects にて「図形や文字のアニメーション」作成

第3回 Adobe After Effects にて「3D 表現」「エフェクト」の使い方

第4回 Adobe After Effects にて「パペットアニメ」の使い方

第5回 自主アニメーション作品制作(クリスマス or 年賀の為のアニメ)

第6回 自主アニメーション作品制作(元絵の読み込み～編集～書き出し)

第7回 自主アニメーション作品制作(ショートアニメーション制作)

第8回 自主アニメーション完成・作品発表(コマアニメ・コンバータ HP 紹介)

【評価方法】

全 8 回のうち 5 回以上出席し、講師が指示する課題を提出した受講者には履修を認定する。

【履修上の注意】

なし。

【参考文献】

なし。